

パーキンソン病の話いろいろ： 便秘について

パーキンソン病を発病すると、胃腸にも異常が生じます。便秘はパーキンソン病の非運動症状として重要なものと認識されていて、研究では便秘傾向の人ほどパーキンソン病になる危険が高くなるともいわれます。便秘が始まる前からパーキンソン病が発病するまで20年くらいかかるともいわれますが、正確なことは不明です。

便秘では、腸管に長く滞留している便の水分が吸収されて固くなり、薬の吸収が悪くなります。パーキンソン病では、体の動きが悪くなるように胃腸の動きも悪くなるため、後で述べるようなイレウスを起したりします。

表1のよう
に便秘の原因はさまざまですが、全てが競って悪い方に向きません。治療を始める便秘がひどくなる人も多く、これはパーキンソン病の治療薬の中には胃腸の動きを鈍くするものがあるためです。特に抗コリン薬（アータン）は便秘に傾ける作用が強いものです。

便秘が引き起こすものとして、麻痺性イレウスは生命の危険を生

【表1】便秘の原因

- パーキンソン病自体によるもの
- パーキンソン病治療薬によるもの
- 運動・水分不足

【表2】便秘対策

- 下剤を服薬
- 運動・歩行で腸に刺激を与える
- 水分や繊維の多い食物を十分にとる
- 毎日トイレに行き、腹部マッサージをしながら排便する
- 下剤で排便のない場合は浣腸をする

じることもあります。多くはまず、便秘の日々が続きます。そして、腸が動かなくなり、お腹の痛み、膨満感が生じて苦しくなり、救急車で病院に搬送される事態はそれほど希ではありません。しか

全てを習慣に 便秘対策

次に、便秘対策を示します（表2）。これらは1つ2つではなく、全てを習慣として行わなければなりません。

パーキンソン病になると運動不足になったり、水分をとらなくなったりしますが、歩くとき体重が腸にかかって刺激となるので歩行・運動は重要です。下剤の中でマグネシウム製剤（マグミット）を服用している場合は便の色が悪くなる場合がありますが、これはドパと結合したもので心配不要です。